

ブログで情報共有力を伸ばす

DEVELOPING INFORMATION-SHARING ABILITIES: INTRODUCING
BLOGGING AS AN INTERACTIVE WRITING ACTIVITY

青島 幸子, アメリカン大学 長谷川 由美, 大真大学

Sachiko Aoshima, American University Yumi Hasegawa, Daejin University

Abstract: This paper presents a case study of utilizing blogging as an interactive writing activity in which Korean college students and those in the United States actively argued Japanese cultural aspects on their own blog sites in the target language, Japanese. Our analysis and discussion regarding the students' activities indicates that the use of blogs in a writing class develops interactive communication skills that are required to be an active participant in a community.

Keyword: blogging, interactive writing, information-sharing, motivation, internet-mediated learning activities

1. はじめに

本発表では、「ブログ」を情報共有力を伸ばせる学習環境として注目し、韓国とアメリカ合衆国の日本語学習者どうしが日本語を使わざるをえない言語環境上でブログを通して日本文化に関する意見交換活動を行った学習記録を考察・評価する。

2. 外国語教育における情報共有力の養成

情報を分かち合う力（情報共有力）は、現代ネットワーク社会において重要な能力のひとつであると位置づける。双方向コミュニケーションの環境で、相手の反応を期待しながらわかりやすく情報を発信し、また相手の意見を理解し議論する。逆に、相手の情報提供に対して知的で有意義なコメントを提供する。情報発信者と受信者の相互作用によって、情報を共有しあう上質なコミュニティが形成される。(e.g. 宮田 2005)

外国語教育の場においても情報共有力を養うことは重要である。外国語教育の基準 *the Five C's: Communication, Cultures, Connections, Comparisons, and Communities* (ACTFL et al. 1999) に照らし合わせてみても、ブログというコミュニティの中で日本の文化に関する情報や意見などを比較・検討する過程において、情報を分かち合う力と技術は必須であろう。ブログを使った学習方法は、学習者同士が日本語を使ってメッセージを発信・受信するという観点から、コミュニケーション・アプローチの一例とみなされることも可能だが、むしろ社会的構成主義 (social constructivism) に情報通信技術を取り入れた共同体的構成主義 (communal constructivism; Holmes et al. 2001) に基づく学習法に最も近いと位置づけられる。学習者同士がブログ・コミ

コミュニティのために日本文化の知識を作り上げていき、その過程で情報共有力を高めている。

ブログを使う理由として、韓国とアメリカのような多種多様なコミュニティにアクセスしやすく、タスクや教材はまさしく **authentic** である。また、ネットが生活の一部となっている学生にとってブログはアプローチしやすく、動機付けとその維持が比較的容易である。

3. ブログによる作文学習の記録と考察

今回ケーススタディとして紹介する日本語学習活動では、韓国と米国の大学生（日本語3年生、18名）を4グループに分け、日本文化のテーマ（ポップカルチャー・有名人・食べ物・ニュース）に関して日本語で意見交換をし、日本文化に対する韓米の意識相違などを議論した。主な学習目標は、相手のレスポンスを期待しながらわかりやすく書き、さらに自分の意見を簡潔に表現する工夫を図ることであった。

実施期間（約10週）において合計77エントリーが掲載され、計248のコメントが書き込まれた。提供された内容が明確で、書き手の意見がはっきりと書かれているエントリーに対して活発な意見交換がなされている。学習者がふだん母語で行っている、情報を分かち合い、発展させる知識や技術を外国語においても応用していると考えられる。アンケート結果から、特に相手の興味関心を予想したり、相手の話題をさらに広げるためにトピックの選択をしたことがわかった。さらに、話題共有への期待感がレスポンスにも見られる。

また、学習者はネット上の検索エンジンやポップアップ辞書などインターネットサービスを情報収集・理解の工具として活用した。アンケートによると、ネットサービスを使った学生は延べ人数32人で、辞書や教科書などの紙媒体の使用（延べ10人）と比べて、使用頻度が高い。ブログによる作文学習の過程で自然にITリテラシーも向上させたと言えよう。

4. 結論

ブログという一種のコミュニティの中で韓国とアメリカの日本語学習者同士が日本文化の情報を提供し、さらに意見交換によって知識を発展させていく。この観察・分析を通して、日本語で「何を書くか」に加えて、「どうやって書くか」、すなわち、コミュニティ仲間と情報を分かち合えるようにわかりやすく表現する技術を高めることが重要であると示唆される。その表現力こそ現代ネットワーク社会で必要となる能力のひとつであると位置づける。

参考文献

- ACTFL et al. (1999). *Standards for Foreign Language Learning in the 21st Century*. American Council on the Teaching Foreign Languages, Inc.
- Holmes, B., Tangney, B., FitzGibbon, A., Savage, T., and Meehan, S. (2001). Communal Constructivism: Students constructing learning for as well as with others. *Proceedings of SITE 2001, Florida*.
- 宮田加久子 きずなをつなぐメディア：ネット時代の社会関係資本 NTT 出版 2005.